

男らしさ 女らしさ 自分らしさ

(特別活動)

対象：小学高学年以上

1 本時の主眼

性別による固定的な見方や生活の中での役割・仕事を考える場面で、性からの見方や役割意識の変化について考えあうことを通して、性別による固定的な生き方に縛られることなく自分らしく生きることを大切にする意識を持つことができる。

2 人権教育の視点

- 性別による固定的役割分担の解消の意義を理解する。(知識)
- 社会的性差にこだわらず希望や目標を持って生きる態度を育てる。(価値・態度)
- 性別にこだわらない友だちの家の家族のあり方や、他の人の考え方などそれぞれの違いを認める。(価値・態度、技能)

3 指導上の留意点

- 子どもたちの家庭のあり様から考える場面があるが、各家庭のさまざまな事情によりそのような役割分担になっていることから、どのようなあり方も否定的にとらえないように配慮する。

4 展 開

段階	学習活動	予想される児童・生徒の反応	指導・助言	時	備考
導入	1 これまでの生活から「男(女)らしく～」「男(女)だから～」「男(女)のくせに～」と言われて嫌な思いをしたこと、聞いたことを思い出す。	<ul style="list-style-type: none"> ・男だから泣くな。 ・女だから、食事の用意を手伝う。(弟はなんで手伝わなくていいの?) ・男のくせにうるさい。(お姉ちゃんはよくしゃべるのに) ・女のくせにおてんば。(私だってサッカーしたい) ・女らしい言葉づかいを。(男の人だって丁寧な言葉じゃないといけないはずなのに何で、女にだけ女らしくっていうのかな) ・男らしく堂々としろ。(男とか女に関係あるの?) 	<ul style="list-style-type: none"> ・言いたくないことについては言わなくていいことを前提とする。 ・言われた時の嫌な気持ちについても併せて発表できるように声掛けする。 	10	1・2については、「あけぼの『人間に光あれ』」P6・7のワークも活用できる
展開	2 家庭の中のお父さんがする役割や仕事、お母さんがする役割や仕事があるか思い出す。	<ul style="list-style-type: none"> ・掃除や、洗濯や、ご飯を作るのは、お母さんやおばあちゃん。 ・庭の草取りはお父さん。 ・洗いものはお父さん。 ・お父さんとお兄ちゃんは洗車。 ・ご飯の買い物はお母さん。 ・うちは、買い物はお父さんのときとお母さんのときがある。 ・うちは、掃除はお父さんとぼく。 ・うちと、違うところがあるなんてびっくりした。 ・お父さんがご飯の用意するんだ。うちでは見たことがないな。 ・いや、それもかっこいいと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事や役割を性別にまとめる。 ・発表の中で児童生徒の性別による固定的役割分担意識が出されれば取り上げる。 ・教師の子どもの頃の固定的役割を話す。 ・男女問わず役割を分担している例を取り上げる。 ・自分の家と友だちの家の違いについての感想を取り上げる。 	10	
役割や仕事について「性」の視点で見つめてみよう。 そして、自分の将来について考えてみよう					

	<p>3 世の中の役割や仕事で、男の役割や仕事、女の役割や仕事だと見られているものや、イメージが変わってきているものについて、考え合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 男の仕事というイメージのもの <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ選手・運転手(士)・大工・寿司屋の板前・医師・漁師・バスの運転手・タクシーの運転手など ○ 女の仕事というイメージのもの <ul style="list-style-type: none"> ・美容師・看護師・保育士・キャビンアテンダント・モデル・チェッカー(レジ)・受付など ○ ほとんどのものが男性でも女性でもやっている <ul style="list-style-type: none"> ・言葉の変化から考える。 保母→保育士 看護婦→看護師 ・女性のトラックやバスのドライバーを見たよ。 ・保育園に男の先生がいて、運動が得意で楽しかった。 ・自分のやりたい仕事をやっていてかっこいい。 ・私も、「男だから」「女だから」ということではなくて仕事を選びたいな。自分のしたい仕事があるから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・性別でイメージできる仕事に分ける。 ・本当に性でか分けられているかを考えさせる。 ・昔と今の様子を知らせる。 ・女性の消防士・電車の運転士や、男性の保育士・看護師など少数派の写真を提示したり、それらの方々の仕事に対する思いを知らせ、感想を発表させる。 	15	次ページの資料
まとめ	<p>4 自分のこれからの生き方(役割や仕事)に対して本時を振り返り、考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・男でもたくさん家事のお手伝いをして、家族を助けたい。 ・女でもお父さんと一緒に林業などの仕事をしていきたい。 ・将来の仕事について、もっと自分で考えてみたくなった。 ・いろいろな仕事について、男だからとか女だからと考えずに調べてみたい。 ・自分のやりたいことをやっていく、「かっこいい」生き方がしたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今の自分ができそうなことや将来の夢について今日の学習から考えたことを振り返りカードにまとめられるように声掛けする。 	10	・振り返りカード

※ここでは、「性同一性障がい」の学習につなげるため、1時間の扱いにした。長野県教育委員会で作成した「一緒に行こうよ(人権教育指導事例集)」では、3時間扱いで男女共同参画を中心に扱った展開例もある。

消防署勤務「消防士長(救急救命士)」のKさん(女性)



私の仕事は、消防士です。救急救命士の資格も持っています。火事の時、いち早く現場に駆け付け消火活動にあたり、救急車で出動し救急救命処置をし、速やかに病院へ搬送したりすることが主な仕事です。勤務は男性の消防士と変わりません。

どちらかというと事務仕事が苦手な人で体を動かすことが好きでした。また、父がスキーのパトロールをやっていて、ケガをしたスキーヤーの手当てをしていることも見てすごいなあと思っていました。そんなことがあるのか、体を使って人を助けるような仕事がしたいと思っていました。看護師ではなくて、救急救命士の資格を取ったのは、一番早く助けることができる仕事であると思ったからです。また、兄が消防士だったことも大きかったと思います。

今の消防署では女性は一人だけです。でも困ったことはありません。ただ、この仕事に欠かせない、日ごろの訓練の中では、やはり男性の体力にはかなわず悔しい思いをすることがあります。でも、反対に救急の現場では、女性ということで同じ女性の方に安心していただけることもあります。一番うれしいのは「ありがとうございます。おかげで・・・。」と感謝されることです。

この仕事は、誰かのためにできる仕事で、人の役に立つ仕事です。体を動かすことの好きな私にはとても向いている仕事だと思っています。

病院勤務「看護師」のOさん(男性)

私の仕事は、病院の看護師です。一般の病棟や、集中治療室を担当しています。勤務は、昼間の勤務と夜中の勤務を当番制で行う2交代制です。

小中学生の頃、高齢のひいおばあちゃんの手を引いて歩くのが好きで、介護の仕事をしたというおぼろげな思いはそのころからありました。ある時、私の目の前で交通事故がありました。その時、友だちのお母さん(看護師)が、倒れている人の救助を手際よく始めました。その姿を見て、介護や看護の仕事に就きたいという思いが強くなったと思います。また、そのころ私の母が看護学校に入校していて、就職のアドバイスをもらう中で、介護や看護のいろいろな仕事の中から「看護師」を選びました。

女性ばかりということは分かっていましたが、抵抗なく看護学校に入学しました。それは、外国への何回かの留学の中で、男女が同じように生き生きと働き、生活している様子を見てきたからかもしれません。

ただ仕事を始めてみると、それまでのように当然女性が看護してくれると思っている患者さんから「えっ、男性」と言われることがありました。また、「男性なのになんで看護師なの？男性は医者でしょ？」と同僚に言われたこともあります。でも、男性だから有利な点もあります。患者さんをベッドに移したり、車イスに移したりするようなことは結構力があるので、「男の人だと安心するわ」と言われることもあります。

命の重さに直接かかわる仕事なので責任も重いけどやりがいがあります。そして、好きなことだから、これまで続けて来ることができましたし、これからも続けていきたいと思っています。

